

ともしび

第034号
発行
両毛病院
編集 広報委員会

院長通信

2月6日付けの下野新聞に「精神科救急体制」の見直しの記事が載っていました。精神科病院の「輪番制」救急体制を行っていないのが全国で栃木県だけであり、国からの補助金がある以上やらなければならぬというのが県の主張のようです。なおかつ本年4月から精神保健福祉法が改定され、県ごとの精神科救急体制整備が努力義務となったことも関係しているようです。

栃木県では宇都宮病院事件を契機に独自の精神科救急体制を作ってきました。このときは栃精協が主となって県や大学病院と協議をし、それぞれ受け入れできる範囲で協力しあうというものでした。精神保健指定医の数が少なく、民間病院では対応困難という現状も考慮されました。24時間患者さんを受け入れる医師や看護師の配置基準なども民間では達成できないハードルとなっていました。県内ですべてのハードルをクリアしているのは県立岡本台病院だけということもあり、措置入院はまず岡本台病院で対応、民間病院は後方病院として対応するという現行制度ができたわけです。6ヶ月以内に受

診歴のある患者さんは受診病院が対応するという約束事もできました。しかし、岡本台病院だけ忙しいのは納得できない、岡本台病院の隔離室満床で対応できない、6ヶ月以内に受診病院があるのに岡本台病院にまわされた、診療所の対応が無責任だ、など医療側の不満や、たらい回し問題など利用者側の不満が多くなり、制度そのものに対する見直し論が浮き沈みしました。医療側についてはその都度話し合いがもたれ解決して現在に至っています。利用者側の不満をすべては把握していませんが、日勤帯ならばどの民間病院でも初診対応、入院対応、紹介対応程度は行っており、不満の多くは日勤帯以外、夜間、土日祝日に精神症状で救急外来を受診したとき、その精神症状を理由に診察を断られたということではないでしょうか。今度の精神保健福祉法改定は24時間対応、救急対応を各県の努力義務とし、患者さんの利便性を高めようというものですが、病院がコンビニ化するおそれもあります。病院受診の利便性を高めると同時に、病院の特徴を利用者にわかって貰うことも必要です。

第323号 院長 秋山 一郎

精神科医療に携わって

平成22年4月から両毛病院に常勤するようになり、そろそろ2年が経とうとしています。以前総合診療内科という一般内科をしていた私にとっては、精神科領域の新鮮さにはいまだに驚かされ、勉強させられることばかりです。とりわけ強く感じるのは、精神科領域における、コメディカルスタッフの重要さです。病棟業務においては医師以上に患者さんに接している看護師さんたち、補助看護師さんたちの意見や観察結果が非常に重要であり、治療において不可欠なものです。精神科看護においては病識のない患者さんもあり、易刺激性の高い患者さんたちへの対応も繊細かつ専門性が高く貴重なものだと思います。内服薬の継続が重要な分野において、薬剤師さんたちの関わりも大変重要です。入院患者さんにとつての楽しみであり、治療でもある食事について考えてくれる栄養管理のスタッフも、大切な役割を果たしてくれています。また、身体合併症の患者さんが増えている現状、検査スタッフのサポートも重要になっています。そして治療により症状が改善してきたとしても、今度は地域社会もしくは家庭や施設への適応を考えると、行政サービスの利用方法、生活を考える上でのサポート・リハビリテーションなどをコーディネートしていくことが必要で、作業療法士、臨床心理士、ソーシャルワ

ーカーの方々の連携を欠くことはできません。もちろん、その作業を黒子のようには支えてくれる総務・事務、病棟清掃の方々も同様です。このように、精神科医療というものは、まさに「病を診ずして病人を診よ」を体現している科であると、経験の少ない中痛感しています。私の所属していた総合診療内科は、主に症状を訴えてきた患者さんの診断をして、専門の科による治療が必要か、一般内科で対応できるかなどの判断を行い、振り分けるということを行っていました。そのため、患者さんとの関わりはあまり長くなることはありませんでした。しかし精神科領域では、薬を使ってよくなつたらお終いということがありません。むしろそこから患者さんとの関わりが始まると言っても過言ではなく、地域社会との協力体制、現実検討力の乏しい患者さんへのフォローアップなど、医療スタッフ全体として支えていかなければなりません。これから、精神科医療に携わるスタッフが一丸となって、患者さんそれぞれの人生の支えになり、皆で同じ方向を向いて努力することができれば思っています。

医師 秋山 佳子



東京日帰りドライブ

10月にしては少し汗ばむ陽気の中、3病棟合同で私達一行は午前9時過ぎ一路東京へと向かいました。

都内に入り、まず最初に東京スカイツリーの一望できる隅田公園前で記念撮影し、ほぼ下から見上げる塔の高さに圧倒されました。次の浅草寺では、国際色豊かな人々の波にも動じずお参りをし、そしてこの日一番の楽しみであった浅草ビューホテルでの昼食となりました。和・洋・中とたくさん料理を前にし迷うのも束の間、食べ終えると自ら次の目あての料理へ向かい、盛りつけて戻ってくる様子は皆満悦という表情でした。その後上野動物園では日頃見ることのできないパンダ・ライオン・ゴリラなどの大ききや、堂々とした動きに見入った方や、お土産を選んでいるうちに集合時間をオーバーしてしまっほど楽しく過ごしました。

それにしても東京見物はとにかく歩く!! 日ごろの運動不足がたたり帰路につくころには足元もフラフラでしたが、車窓から暮れかかる田園風景を眺めながら今日一日の出来事を振り返ると、寂しく感じられました。

看護師

奇跡のジャンケン

去る10月13日、日精看ソフトボール大会が行われました。今年は東日本大震災の影響もあり、宇都宮市柳田球場での開催となりました。

初戦は、やや緊張しながらも勝ち進み、準決勝で新直井病院と対戦することになりました。お互い一歩もゆずらず接戦となり、結果は同点引き分けに勝負はジャンケンに… 4対4で最後の9人目、みんながドキドキしながら見守る中、勝利の女神が微笑み、全員で優勝したような喜びでした。青木病院との決勝戦では、あと一歩およばず準優勝でしたが、患者さんと一緒に汗を流し楽しい時間を過ごすことができました。

近年、上向きなのは平均年齢、体力はやや下降気味な所もありますが、みんな楽しんで練習しています。興味のある方はぜひ見学・練習に参加してみてください。お待ちしております。

看護師



シャボン玉と笑顔に包まれて

穏やかな秋の日、10月23日に両毛文化祭が行われました。

前日の準備から少しソワソワ・ワクワクする様な気持ちで迎えた当日は、動くも汗ばむ様な陽気の中、テーマソング『ありがとう、みんな!』が流れ、優しく少し懐かしい気持ちになりました。舞台で披露される歌や踊りを見ている患者さん達にも、くつろいだ笑顔が見られました。又、模擬店の前では、患者さんが「私の作った物が売れるかどうか見ているの」と話され、そっと見ていらつしゃいました。

私はプレイングコーナーの担当でしたが、子供達がシャボン玉や紙鉄砲、振り子の動きに目を輝やかせながら思い思いに遊び、笑顔にあふれていました。沢山のシャボン玉と笑顔に包まれた楽しい秋の一日となりました。

検査技師



楽しいひととき!!

11月18・19日、宇都宮福祉プラザにおいて、栃木県障害者文化祭が開催されました。

18日の朝、当院の模擬店で販売する『みそおでん』の材料を持って、いざ宇都宮へ出発です。当日は、あいにくの寒い日になってしまい、お客さんの出足が心配でしたが、お昼近くになるにつれ、次々とお客さんが集まってにぎやかになりました。当院の患者さんは、まだかなあ・・・と思っていると患者さんの顔が次々と見えホッとひと息。患者さんが、おいしそうに食べている姿をみて、こちらも心が温まりました。その後もお客さんが次々にみえて、本日は、あつという間に完売になってしまいました。やっぱり当院の『みそおでん』は、大好評ですね。

寒い日になってしまいましたが、おいしい『みそおでん』をたくさんの方に食べていただき、楽しいひとときを過ごす事ができました。

アシスタントナース



家族会ドライブに参加し

11月12日、患者さんや家族と共に宇都宮の梵天の湯に行つてきました。前日の雨天から一転して快晴に恵まれ、バスの中から見る景色も紅葉の気配を感じることができました。着いた後は皆さんそれぞれにゆつたりと自由に過ごしていただきました。お姉さん・お父さん・お母さんと同伴されたことで患者さんはリラックスされてとても良い表情でした。

昼食は館内のレストランでとりました。ピククリだったのは天井が天に届くかの如くポリウムがあり、後から聞いたところによるとおすすめメニューとのこと。行かれた方、ぜひ注文してみてください。もうピククリですから。

その後は入浴したり、お土産をみたりと楽しい時間を過ごしました。帰路のバスの中でも会話は弾み「楽しいね」の声をいただきました。

看護師



熱闘！院長杯

今年も開院記念日にあたる12月1日に、院長杯ゴルフコンペが唐沢ゴルフ倶楽部三好コースで行われ、18名が参加しました。

まず院長による始球式が行われました。スタートホールからナイスショットの連続で、優勝目指して熱の入ったプレーが続きました。私も気合だけは十分ありましたが、スコアにはつながりませんでした。ただ、勝負の中にも和やかな雰囲気、皆さんがゴルフを楽しんでいる様子でした。

今年の優勝は徳重先生(グロス83・ハンディキャップ18・ネット65)で見事優勝トロフィーを手にされました。また来年に向け練習を重ねたいと思います。天候はあいにくの寒空でしたが、今後も更に多くの方が参加し、ゴルフを通じて和を深め院長杯を盛り上げていければと思います。

事務



笑顔いっぱいクリスマス

12月16日、皆さんが楽しみにしていたクリスマス演奏会が開催されました。

両毛バンドの素敵な演奏から始まり、各部それぞれの持ち味を活かした、見ごたえのある演芸が披露されました。手作りの衣装をまとい、歌や踊りや演技をする姿はとても楽しそう、見ている私達も笑顔になりました。

又会場の皆さんには、サンタクロースからお菓子のプレゼントがあり、おいしそうに召し上がっていました。最後を飾るのは恒例の「白浪五人男」です。各部を代表した職員5名の迫力ある演技に会場は静まり、名乗りをあげる毎に大きな拍手と歓声が上がりました。最後は「イケアメンバー」さんの万歳三唱で閉幕となり、普段とは違った患者さんの表情を見ることができたのが印象的な1日でした。

管理栄養士



【外来診療のご案内】

診療科目 精神科・内科

受付時間 初診 午前 8:45~11:30
再診 午前 8:45~12:00
診療時間 午前 9:00~12:30
(専門外来 毎週水曜日 午後 2:00~)

- * 外来診療 月~金・第3土曜日(第1・2・4・5土曜日の診療は、電話にてお問い合わせ下さい。)
- * 外来診療は予約制になっておりますので、初診の方も事前にご予約をお願い致します。その他、ご不明な点がございましたらお問い合わせ下さい。

外来担当医師表

1 児童・思春期・発達障害専門外来

毎週水曜日の午後に行っています。18歳未満で下記のようなお子さんが対象になります。情緒不安定・不登校・問題行動がある・幼稚園、保育園、小学校などで発達障害を指摘されたなど、診察を希望される方は、電話にてご予約下さい。

2 内科診療外来

毎週火曜日 秋山佳子医師

	初診・当日受付	予約再診	予約再診
月	岡安 寛明	秋山 伸恵	高山 晃司
火	秋山 伸恵	秋山 一郎	山本 卓二
		秋山 佳子 2	
水	岡安 寛明	中村 晃士 1	秋山 伸恵
	秋山 佳子		
木	山本 卓二	秋山 一郎	杉原 亮太
金	高山 晃司	秋山 伸恵	
土	岡安 寛明	岡安 寛明	

【交通のご案内】

* 自動車でお越しの方

佐野田沼IC(北関東自動車道)より7分

佐野藤岡IC(東北自動車道)より15分

* 電車でお越しの方

佐野駅(JR・東武)よりタクシーで5分

堀米駅(東武)より徒歩7分

【編集後記】

暦の上では立春を迎えましたが、まだまだ寒い日が続いています。日本海側では記録的な大雪に見舞われ、雪による被害も起きています。昨年は震災もありましたが、今年は平和で穏やかな一年になることを願っています。

広報誌『ともしび』では両毛病院のいろいろな活動を、今後も随時発信していきますので、今年もよろしくお願ひ致します。

医療法人 秋山会

R 両毛病院

〒327-0843 栃木県佐野市堀米町1648
TEL 0283-22-6150 FAX 0283-21-6159
ホームページアドレス <http://www.ryoumoubyouin.jp/>
<広報委員会> 田名網 石橋

